

絵本の読み聞かせ頻度と 発達スコアの関係

研究の背景と目的

乳幼児期は、ことば・運動・社会性などが大きく伸びる大切な時期です。日々の生活の中で、子どもは周りの大人とのやりとりから多くのことを学びます。

絵本の読み聞かせは、物語を楽しむだけでなく、親子で目を合わせたり、指さしをしたり、「これは何かな?」「次はどうなると思う?」と声をかけ合ったりする機会を自然に増やします。こうしたやりとりが、発達を支える可能性があると考えられています。

そこで本研究では、エコチル調査に参加した親子のうち約3万人のデータを用い、読み聞かせの頻度が、ことばだけでなく、運動や問題解決、社会性などを含む5つの発達領域 (ASQ-3 ※1) とどのように関連するかを検討しました。

絵本の読み聞かせの頻度

参加者 36,866人

- いつも 10,942人 (1週間に5回以上)
- ときどき 22,262人 (月に1回～週に4回以下)
- たまに 3,662人 (月に1回以下)

発達のスコア

ASQ-3スコア

- 1 コミュニケーション ▶ 名前を言う
- 2 個人社会スキル ▶ 服を着る
- 3 問題解決能力 ▶ ブロックをまねして並べる
- 4 粗大運動 ▶ ボールを蹴る
- 5 微細運動 ▶ ピーズに糸を通す など

質問の回答に応じて点数が付けられ、それぞれの合計点が、各領域で決められている「カットオフ」値を下回った場合に、発達の遅れの可能性が示唆されます。

【用語の解説】

※1 Ages and Stages Questionnaires® (ASQ)-3

1～66か月(5歳半)の小児の発達遅滞をスクリーニングするために設計されたツールで、5つの領域に分かれた30項目の質問で構成されています。

※2 両親の背景や生活情報などを交絡因子として調整しました。

研究結果

1 読み聞かせの回数が多いほど、3歳時点での5領域でスコアが高い傾向が見られました。

たとえば3歳時点では、コミュニケーションスコアが最大で約5点高いことが示されました。

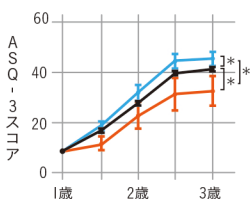
3歳

絵本の読み聞かせの頻度	
めったに	—
月に1～3回	2.8
週に1～2回	3.8
週に3～4回	4.6
週5回以上	5.5

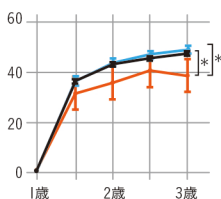
5点

2 1歳時点でカットオフを下回っていたお子さんでも、読み聞かせを継続している家庭ほど、3歳までのASQ-3スコアが高い傾向がみられました。

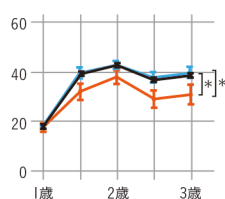
(A) コミュニケーション



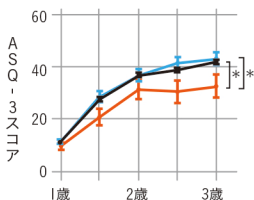
(B) 粗大運動



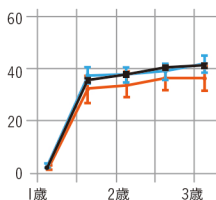
(C) 微細運動



(D) 問題解決



(E) 個人-社会



— 3年間「頻繁(週に5回以上)」群
 — 3年間「ときどき(週に1~4回)」群
 — 3年間「ほとんどない」群
 * : 有意差あり

今回の研究から分かったこと

読み聞かせが多いほど、3歳の5領域全ての発達スコアが高い傾向がありました。1歳の時点で発達がゆっくりでも、読み聞かせを習慣にできた家庭ほど、その後のスコアが高い傾向がありました。

読み聞かせが多い家庭では、子どものメディア時間が少ない傾向もみられました。